

主要施策名：(2)公共交通の維持・充実

事務事業本数:1

基本目標(章)	主要施策(節)	所管課	事務事業 コード	事務事業
④便利で快適な都市づくり	(2)公共交通の維持・充実	地域振興課	420-01	地域公共交通対策事業

事務ふりかえりシート

《基本情報》

事務事業の名称 【1】	地域公共交通対策事業		所管課 【2】	地域振興課					
	作成者(担当者)		田村 秋美						
総合計画での位置付け 【3】	基本目標(章)	④便利で快適な都市づくり		重点 施策 【4】					
	主要施策(節)	(2)公共交通の維持・充実							
	施策区分				□ 該当				
実施の根拠 (複数回答可) 【5】	■ 市長公約 ■ 法令、県・市条例等【 玉名市地方バス運行等特別対策補助金交付要綱、玉名市生活交通路線維持費補助金交付要綱等 】								
	■ その他の計画【 第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略 】								
事業区分 【6】	■ ソフト事業	□ 義務的事業	□ 建設・整備事業	□ 施設の維持管理事業					
	□ 内部管理事務	□ 計画等の策定及び進捗管理事務							
会計区分 【7】	■ 一般会計	□ 特別・企業会計【 】	】 款 2 項 1 目 13 細目 9						

《事務事業の目的》

事務事業の実施背景(どのような問題又はニーズがあるのか) 【8】	公共交通は、道路交通体系の充実や自家用車の普及に伴い利用者が減少傾向にあり、民間事業者だけでは維持していくことが困難な状況にある。そのため、バス路線の欠損補助など公的支援を行い、特に移動制約者の日常生活における移動手段を確保している。しかし、現状の公共交通体系が実態に即しているとは言い切れず、非効率な運行形態や市の財政負担増、交通空白地への対応など課題を抱えている。
対象 (誰、何に対して、受益者等) 【9】	市民及び来訪者、公共交通
意図 (どのような状態にしたいか) 【10】	将来的にも利用され、財政的にも負担の少ない効率的、効果的な公共交通体系を構築し、便利で安心して暮らせる玉名の実現に寄与する。

《事務事業の概要》

事業期間 【11】	□ 単年度のみ 【 年度】	■ 单年度繰返し 【 H17 年度から】	□ 期間限定複数年度 【 年度～ 年度まで】
事業主体 【12】	□ 国	□ 県	■ 市 □ 民間 □ その他【 】
実施方法 【13】	□ 直営	□ 全部委託・請負	□ 一部委託・請負 □ 補助金等交付 ■ その他【 一部委託・補助 】
事務事業の具体的内容 【14】	<p>・地方バス路線維持のための運行補助 ・JR大野下駅及び肥後伊倉駅の管理業務 ・乗合タクシー事業に対する補助・委託 ・市の公共交通体系を協議し、一部事業については自ら実施する「玉名市地域公共交通会議」の主催 ・熊本県地域公共交通協議会に関する業務 ・阿蘇くまもと空港の国際線振興に関する業務</p>		
	<p>【15】 事務事業を構成する細事業(8)本 ⇒ ① 地方路線バス運行補助事業 ② 乗合タクシー運行事業 ③ JR駅管理業務委託事業</p>		

《事務事業実施に係るコスト》

	R04年度決算	R05年度決算	R06年度決算	R07年度予算	全体計画
投 入 コ ス ト	事業費 （千円）	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	13,279	7,702	7,059
		起債	11,700	0	0
		受益者負担	0	0	0
		その他	9,192	9,662	9,774
		一般財源	128,472	137,367	124,161
		【16】 小計	162,643	154,731	140,994
	職人 員件 の費	職員人工数	1.20	1.35	1.27
		職員の年間平均給与額(千円)	5,429	5,554	5,727
		会計年度任用職員人工数	0.86	1.44	2.00
		会計年度任用職員の年間平均給与額(千円)	1,382	1,325	2,273
		【17】 小計	7,704	9,406	11,819
		合 计	170,347	164,137	152,813
					156,952

《事務事業の手段と活動指標》 [18]

事務事業を構成する細事業	手段(細事業の具体的内容)	活動指標	単位	R04実績	R05実績	R06実績	R07計画
① 地方路線バス運行補助事業	委託路線維持のため、バス事業者に対し、補助金を交付	系統	系統	19	19	16	15
② 乗合タクシー運行事業	事前予約制乗合タクシー運行への補助	乗合タクシーの営業日数	日	359	359	357	359
③ JR駅管理業務委託事業	JR九州から受託している簡易委託駅(大野下・肥後伊倉)の切符販売等を地元団体に委託	受託している駅数	駅	2	2	2	2

《事務事業の成果》 [19]

成果指標(意図の数値化)	計算方法又は説明	単位	R04目標	R05目標	R06目標	R07目標
			R04実績	R05実績	R06実績	△
1 乗合タクシー利用者数	各乗合タクシーの利用者数	人	11,000	14,000	16,000	22,000
			13,701	15,204	21,032	△
2 路線バスの系統見直しによる補助金額の改善	路線バスに対する補助金額	千円	98,621	90,728	87,260	68,866
			90,728	87,260	68,866	△

《事務事業の評価》

評価視点		判断理由		
(必妥要当性)	【実施主体の妥当性】[20-1] 市が実施すべきであるか(民間、NPOなどが実施できないか。)。	<input checked="" type="checkbox"/> 市が実施すべき <input type="checkbox"/> 市が実施する必要はない	バスは産交バス、鉄道はJR、乗合タクシーは市(運行はタクシー事業者)が行っているが、民間事業者のみで運行を維持するのは難しい。	
	【目的の妥当性】[20-2] 社会情勢の変化により、目的(対象・意図)の見直しは必要でないか。	<input type="checkbox"/> 必要なし <input checked="" type="checkbox"/> 必要あり	バス・乗合タクシーの運行において、利用が少ない便・乗降場所等の見直しが必要。	
	【休廃止の影響】[20-3] 事務事業を休止・廃止をした場合、市民に影響はないか。	<input type="checkbox"/> 影響なし <input checked="" type="checkbox"/> 影響あり	代替の移動手段を求められる	
有効性	【目標の達成度】[21-1] 成果指標の目標は達成できたか。 達成、未達成の原因はどのようなことが考えられるか。	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達成	乗合タクシーの利用者数は、運行便数の増加や周知活動により目標を達成している。 路線バスの系統見直しによる補助金額については、路線の減便によるものと考えられる。	
	【細事業の適当性】[21-2] 目的(意図)を達成するため、細事業の構成は適当であるか。	<input checked="" type="checkbox"/> 適当 <input type="checkbox"/> 不適当	目標を達成するために適当である。	
効率性	【コストの低減】[22-1] コストの低減について、検討の余地はないか。	<input type="checkbox"/> 余地なし <input checked="" type="checkbox"/> 余地あり	バス・乗合タクシーの利用が少ない便・乗降場所等の見直しの余地がある。	
	【執行過程の見直し】[22-2] 執行過程の簡素化・改善について、検討の余地はないか。(デジタル技術の導入など)	<input type="checkbox"/> 余地なし <input checked="" type="checkbox"/> 余地あり	乗合タクシーの予約登録を玉名市公式LINEで申請できないか検討中。	
	【民間活力の活用】[22-3] 民間のノウハウ活用について、検討の余地はないか。	<input type="checkbox"/> 余地なし <input type="checkbox"/> 余地あり	今後はEV車や自動運転など検討していく必要があるが、現在は導入以前の体制を整える段階であり、現段階では着手しない。	
	【類似事業との統合】[22-4] 目的が類似する他の事業との統合について、検討の余地はないか。	<input checked="" type="checkbox"/> 余地なし <input type="checkbox"/> 余地あり	目的が類似する事業(福祉バスなど)とは、対象者が異なるため、統合は難しい。	
公平性	受益者負担について、検討の余地はないか。 徴収を行っている場合は、負担水準(対象・金額)について検討の余地はないか。	<input checked="" type="checkbox"/> 余地あり <input type="checkbox"/> 余地なし	物価・人件費の高騰の中でもR1.10月から利用料金を据え置いているので、負担水準については一定の収支率をふまえつつ検討の余地がある。	
[23]				

《前回からのふりかえり結果と今後の方向性》

前回のふりかえりに対する見直し・改善状況	(前回のふりかえりの内容)
	近年はバスの利用が減っていたが、利用促進のために市単独および熊本連携中枢都市圏事業で「バス無料の日」を実施する。 また、乗合タクシーの利用登録をWEB等ができるよう改善を図る。
(24)	(前回のふりかえりに対する見直し・改善状況)
	公共交通利用促進を目的に、熊本連携中枢都市圏事業で「バス・電車無料の日」と市単独で「玉名市街地循環線バス無料の日」を実施した。当日は多くの方が乗車し、普段利用しない層への公共交通を利用する「きっかけ」作りができた。 乗合タクシーのWEB利用登録については、8月より玉名市公式LINEによる受付を開始した。開始後は、主に若い世代からの申請が多く、日中は仕事や学校で市役所に来庁できない世代からの反響が見られた。
次年度の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 拡充して継続 <input type="checkbox"/> 現状のまま継続 <input type="checkbox"/> 縮小して継続 <input type="checkbox"/> 執行方法の改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 終了
次年度の方向性に対する判断理由及び見直し・改善の具体的な内容	「バス無料の日」については、今後も実施していく。あわせてバス乗り方教室を開催し、公共交通への関心を高める取り組みを行っていく。 乗合タクシーについては、WEBでの利用登録の反響があったため、予約受付についてもWEB等での予約受付を検討し、若年層の利用促進を図る。

■評価責任者記入欄■

評価責任者(課長)の所見	評価責任者
[26] R6年度においては乗合タクシーの利用者が地域及び時間帯において増加していたため補正予算を組み増便を行ったり、高瀬裏川花しょうぶまつりに合せ「玉名市街地循環線バス無料の日」を実施し好評であった。今後も、利用者に便利に利用できるような施策を検討し実施していく。	小山 晃生